

3年生実践から見る 指導と評価

1. 単元名 「事故や事件からまちを守る」～事故・事件0のまちをめざして～

2. 学校教育目標と社会科（本単元）で目指す子どもの姿

《省略》

3. 単元目標

事故や事件から地域の安全を守る働きについて、警察署などの施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりしてまとめ、警察署などの関係諸機関や地域の人々の相互の関連や従事する人々の働きを考え、表現することを通して、警察署などの関係機関は、地域の安全を守るために、相互に連携して緊急時に対応する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して事故や事件の防止に努めていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基に地域の安全を守るために地域社会の一員として自分たちができることを考えようとする態度を養う。

4. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①警察署などの施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などについて、警察署などの関係機関や関連する施設を見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、関係機関や地域の人々の諸活動を理解している。 ②調べたことを白地図や図表、文などにまとめ、警察署などの関係機関は、地域の安全を守るために、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して事故や事件などの防止に努めていることを理解している。	①警察署などの施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、問いを見だし、関係機関や地域の人々の諸活動について考え表現している。 ②連携・協力している関係機関の働きを比較・分類したり、関連付けたりして警察署などの関係機関に従事する人々の活動と地域の人々の生活を関連付けて、従事する人々の働きを考えたり、学習したことを基に地域や自分自身を守るためにできることを考えたり選択・判断したりして表現している。	①事故や事件から地域の安全を守る働きについて予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②学習したことを基に地域の安全を守るために自分たちができることを考えようとしている。

5. 目指す子どもの姿に迫るための授業改善の5つの視点

(1) 教材化 ～心のよりどころとしてのふるさと川崎への愛着をもち、将来の川崎の担い手となる人材～

本単元では「消防」「警察」を一つの内容のまとめとしてとらえ、消防の学習とのつながりを意識しながら学習の終わりに選択・判断ができるように教材化を進めました。特に警察の学習では「未然防止」に重点をおいて扱うようにしました。また、キッズガードのAさんの活動の意味を考える時間を設定することで、警察や地域が連携しながら安全を守っていることに気づいたり、自分たちにも何かできることがあるのではないかとより具体的に考えたりすることができると考えました。学習を通して地域の一員としての自覚をもち、これから社会とかかわっていくための素地を養っていきけるようにしたいと考えました。

(2) 学習過程 ～消防の学習との比較・関連を意識した学習過程～

単元のはじめに「事件・事故の発生件数」のグラフを提示し、年々減少傾向にあることから、そこにかかわる人々の工夫や努力、仕組みなどに着目して学習を進めていけるようにしました。また、消防の学習と比較したり関連付けたりしながら事件・事故を0にしようとするための取組について警察・地域といったそれぞれの立場から考えていけるような学習過程を考えました。そして、終末では再度「事件・事故の発生件数」のグラフから、なぜ多くの人が努力しているにもかかわらず事件・事故が0にならないのかを考え、自分たちにもできることがあるのではと問題意識をもち、選択・判断できる学習過程となるようにしました。

(3) 学習活動 ～発達段階を意識した学習活動～

3年生の発達段階を考えると、一人一人が資料をしっかり読み取るには難しい場面も多くありました。そのため、ICTを活用したり、クラス全体で資料について十分に話し合う時間をとったりして、全員が共通の土台に立った上で学習問題をつくり、予想を考えることができるように心がけました。また、地域を守る働きを関係図にまとめる活動を消防・警察ともに取り入れることで、既習を生かして自分の力でまとめ、そこから諸機関の連携について考えられるようにしていきました。

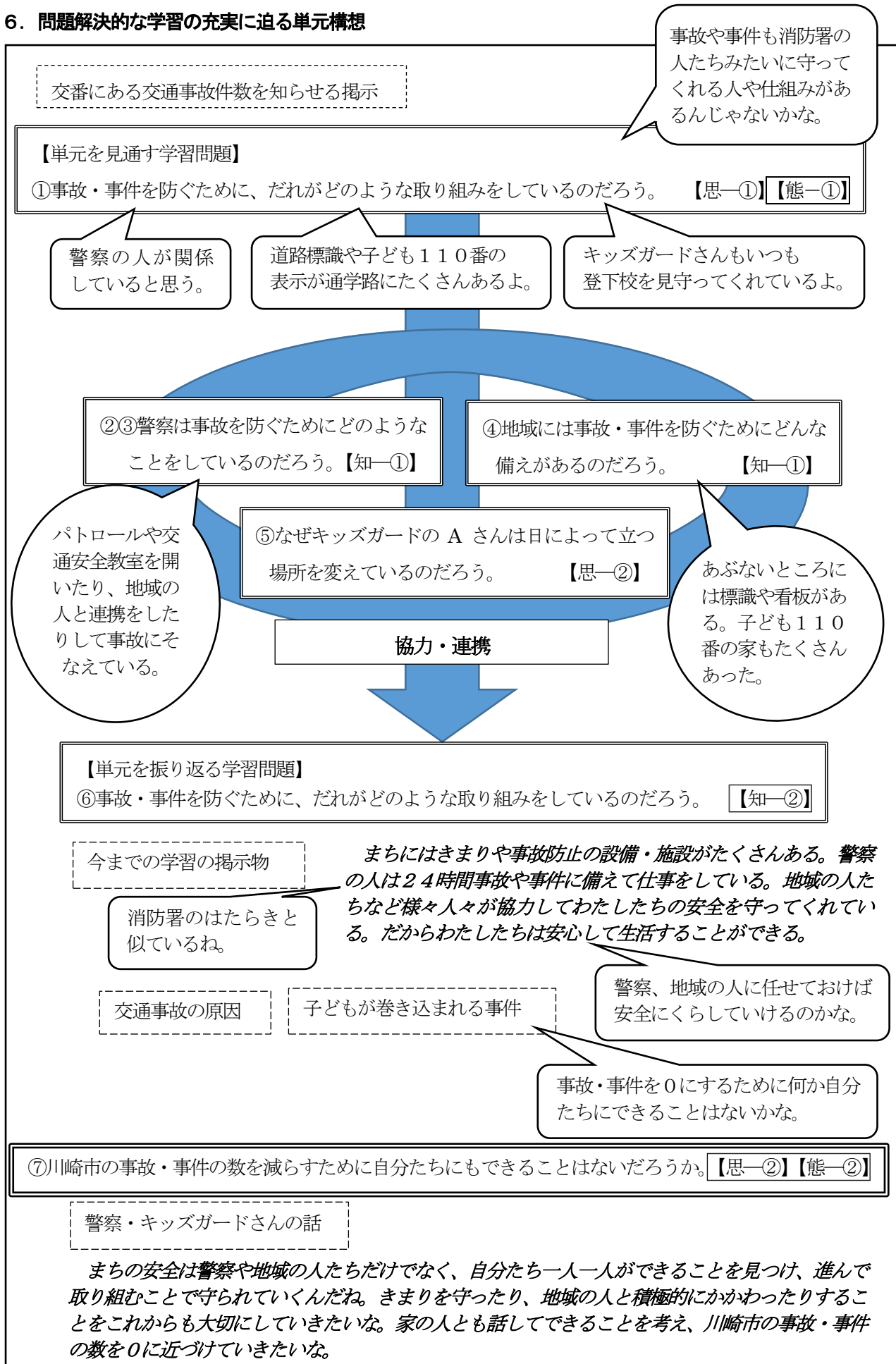
(4) 指導と評価 ～学ぶこと、働くこと、生きることの尊さを実感し、学ぶ意欲をもった人材～

「学習問題をつくる→予想する→調べる→考える→まとめる→新たな問題を見つける」といった問題解決的な学習の流れを大切に、子どもが自分自身で今何をすべきかがわかるように指導をしていきました。また、予想や調べたことについて全体で話し合う時間を十分にとったり、子どもの振り返りを全体で共有する場面を設定したりして、協働的に学んでいけるようにしました。そして、子どもの振り返りから、子どもの思考を踏まえて単元の流れを確認し、子どもの追究意欲の持続を図っていくようにしていきました。

(5) 一人一人が生きる社会科学習 ～共生・協働の精神をもち、共生社会を実現していく人材～

社会科の学習だけでなく、どの教科等でも協働的な学びを大切にしていきました。一人ではできないことも、クラスみんなで考え、試行錯誤して粘り強く取り組むことで、できるようにするという経験をたくさん積み重ねることで、学ぶ楽しさを実感させたいと考えました。そうした経験が自己肯定感を高めていき、学びに意欲的に向かう姿勢を育てていくことになると考えました。また、子ども一人一人の学びを見取り、価値付けることを大切に、追究意欲を高めていくことを目指しました。

6. 問題解決的な学習の充実に迫る単元構想

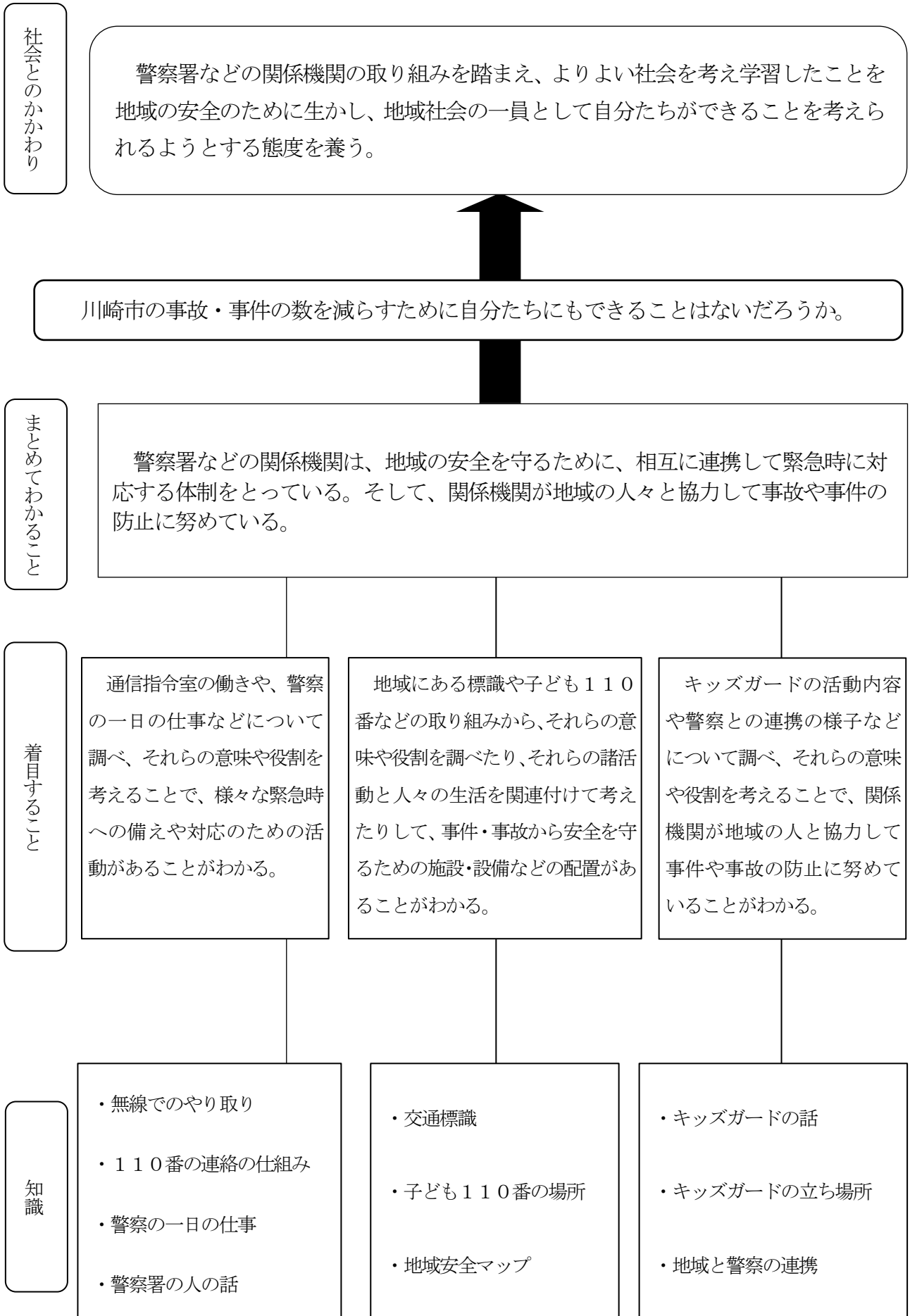


7. 資質・能力の育成に向けた学習評価計画（8時間） ※ は評価したことを記録に残す場面

○本時のねらい	○主な学習活動	◇主な資料	評価方法【評価規準】
<p>①消防の学習を振り返り、事故や事件から地域の安全を守るための働きについて学習問題をつくり、学習計画を立てることができるようになる。</p>	<p>○イラストやグラフ、写真などから学習問題をつくる。</p> <p>○学習問題の予想をもち、学習計画を立てる。</p>	<p>◇交番にある交通事故件数を知らせる掲示</p>	<p>ノートの記述や発言内容から、「安全を守るための関係機関や人々、その働きに着目して、問いを見出しているか」を評価する。【思-①】</p> <p>発言の内容やノート記述から「単元1の追究の過程を振り返り、予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。【態-①】</p>
<p>②事故が起きた時の関係機関の働きを理解できるようにする。</p>	<p>○通信指令室と関係機関の人々の働きを調べる。</p>	<p>◇110番のれんらくのしくみ</p>	<p>ワークシートやノートの記述内容から「通信指令室の働きをもとに必要な情報を集め、読み取り、関係機関は事故の際、緊急時に対処する体制をとっていることを理解しているか」を評価する。【知-①】</p>
<p>③警察がどのような仕事をしているか理解できるようにする。</p>	<p>○警察署の方の話を聞いたり、仕事を観察したりし、警察署の人たちの仕事を調べる。</p>	<p>◇警察の一日の仕事</p> <p>◇警察署の人の話</p>	<p>ワークシートやノートの記述内容から「警察署を見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、警察の諸活動を理解しているか」を評価する。【知-①】</p>
<p>④地域の安全を守る施設や活動について理解できるようにする。</p>	<p>○地域の安全を守る施設や人々の活動について調べる。</p>	<p>◇地域にある交通標識の写真</p>	<p>見学カードやノートの記述内容から「地域の事故や事件を防止する取り組みを調べ、関係機関や地域の人々は事故や事件を防止する体制をとっていることを理解しているか」を評価する。【知-①】</p>

<p>⑤地域の安全を守るための関係機関や地域の人々の諸活動について考えることができるようにする。</p>	<p>○地域の人たちの安全を守るための活動について調べ、活動の意味を考える。</p>	<p>◇キッズガードさんの話</p>	<p>ノートへの記述内容から「連携・協力している関係機関の働きを比較・分類したり、関連付けたりして警察署などの関係機関に従事する人々の活動と地域の人々の生活を関連付けて、従事する人々の働きを考えているか」を評価する。</p> <p style="text-align: right;">【思-②】</p>
<p>⑥事故や事件から安全を守る人々の働きについてまとめることができるようにする。</p>	<p>○関係図を作り、事故や事件に対応したり、防止したりする警察署や関係機関の働きをまとめる。</p>	<p>◇今までの学習を再構成した関係図</p>	<p>ノートの記述内容から「調べたことを図表や文などにまとめ、警察署などの関係機関は地域の安全を守るために、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して事故や事件がどの防止に努めていることを理解しているか」を評価する。</p> <p style="text-align: right;">【知-②】</p>
<p>⑦地域の安全を守るために、自分たちができることを考えようとする態度を養う。</p>	<p>○地域の安全を守るために自分ができることを選択・判断し、伝え合う。</p> <p>○今までの学習を振り返り、地域の安全を守るために自分たちができることを考え、まとめる。</p>	<p>◇警察・キッズガードさんの話</p>	<p>発言内容やノートの記述内容から「連携・協力している関係機関の働きを比較・分類したり、関連付けたりして学習したことを基に地域や自分自身を守るためにできることを考えたり選択・判断したりして表現しているか」を評価する。</p> <p style="text-align: right;">【思-②】</p> <p>安全宣言の記述内容から「学習したことを基に安全を守るためにできることを考えようとしているか」を評価する。</p> <p style="text-align: right;">【態-②】</p>

資料. 「社会のしくみ」と「社会とのかかわり」をつなぐ理解の構造図



ともに生きる未来を創造し、よりよい社会の在り方を問い続ける社会科学習

本単元の地域の安全を守る働きの学習は、主に火災(消防署)や事故・事件(警察署)を中心として地域の人々の連携のもと、私たちの安全が守られていることを理解し、これから自分たちにできることを選択・判断することが求められています。そこで、子どもの思考の流れを把握し、それを生かせるような学習展開を考えました。

火災を取り扱った学習と事故・事件を取り扱った学習を関連付けて考えられるような構想を考える中で、指導と評価の関連性も踏まえられるようにしました。具体的には、火災を扱った学習が事故・事件の単元のどの時間に生きてくるのか、について考え、それらを生かせるように指導と評価を繰り返し、資質・能力を育成していくことを目指しました。

<自分と地域・川崎市とのつながりを感じ、語れる子を育成するための手立て>

○指導と評価の関連性を意識した学習過程 (評価の妥当性と信頼性)

国立教育政策研究所から出されている『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』には学習指導要領の「内容まとめ」と「評価の観点」との関係を確認し、観点ごとのポイントを踏まえ、内容のまとめごとの評価規準を作成するように示されています。



本単元のはじめに「事件・事故の発生件数」のグラフを提示し、年々減少傾向にあることから、そこに関わる人々の工夫や努力、仕組みなどに着目して学習を進めていけるようにしました。そして、消防の学習と比較・関連付け、事件・事故を0にしようとするための取り組みについて警察・地域といったそれぞれの立場から考えていけるような学習過程を考えました。そして、終末では再度「事件・事故の発生件数」のグラフから、なぜ多くの人が努力しているにもかかわらず事件・事故が0にならないのかを考えることで、自分たちにもできることがあるのではないかという問題意識をもち、選択・判断できる学習過程を考えました。

○児童の見取りを生かした指導と評価の一体化 (指導に生かす評価と記録に残す評価)

これまでの指導と評価の積み重ねがどのような場面で見られたのか。
教師の指導と評価によって子どもがどのように変容していたのか。

本単元では、「地域の安全を守る働き」を内容のまとめで捉え、指導と評価の関連について考え、指導に生かす評価と記録に残す評価の位置付けを明確にして学習を展開できるようにしました。問題解決的な学習の一連の流れ、資料の読み取り、調べ方を指導しそれらが身に付いているかを丁寧に見取り、学習のねらいに沿うように指導を行ってきました。

5時間目では、地域の見守りをしているキッズガード(ボランティア)に焦点を当てました。毎朝見守りをしてくれている地域の人以外にも、警察からの情報をもとに見回っているOさんの存在に気づき、まちや自分たちの安全を守ってくれている人が、警察と連携・協力しながら働いていることを考えられるようにしました。

